

## 第2章 第3次地域福祉活動計画の総括

---

### ▽ 第3次地域福祉活動計画を振り返って

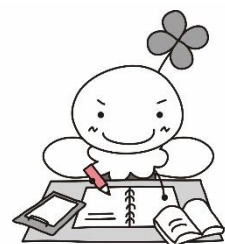
第3次京田辺市地域福祉活動計画では、京田辺市が策定した第3期京田辺市地域福祉計画の基本理念「お互いさんの心と絆ではぐくむ心豊かなまち 京田辺」を共有し、具体的に実践・行動していくための計画の思いとして「～育てよう 支えあう 絆でつなぐ ふれあいネットワーク～」をサブテーマに掲げました。地域や暮らしの課題を他人ごとではなく自分たちのこととして捉え、市民一人ひとりが持っている「助けあい」や「支えあい」の思いを絆へと育み、みんなで共に取組を進めていこうという意味が込められています。この基本理念に基づき、3つの基本目標とそれにかかる基本計画を掲げ、5ヵ年計画で取組を推進してきました。

「基本目標1 支えあいをはぐくむまちづくり」では、身近なところでの近所活動や居場所づくり、またボランティア活動への参加促進に向けた取組などを進めてきました。

「基本目標2 地域で安心して暮らせるネットワークづくり」では、“絆ネットワーク活動”として、地域の中での課題解決や解消をはかる仕組みづくりのための取組や当事者組織のつながり支え合う活動を進めてきました。近年では、子どもの貧困や生活困窮者の問題など、これまでの制度では対応が難しい問題が顕在化し、複合的な課題を抱える家庭が増えてきました。新型コロナウイルス感染症が流行し、生活環境の変化により、地域の中でのつながりが希薄になり、課題解決に向けての取組が十分にできなかった年もありますが、福祉の担い手として社会福祉協議会では、困りごとの受け止めや適切な対応に努めてきました。

「基本目標3 市民とともに福祉を進める社協づくり」では、社会福祉協議会についてもっと知ってもらい、身近に感じてもらうことで、共に福祉活動を進めて行けるようわかりやすい広報などに努めてきました。

京田辺市は、住宅開発や交通の利便性の良さなどから人口や世帯数が増えています。豊かな自然を大切にしながら、新しいまちづくりを進めていくために、地域役員や関係団体と協力し、高齢者や障がい者、子育て中の親子が気軽に集える「サロン活動」を進めています。ボランティアセンターではボランティア活動に関する相談や活動先の紹介、小中高校の福祉教育の支援など、地域の福祉活動の拠点としての役割を果たしていることを知ってもらえるよう努めました。



## 基本理念

お互いさんの心と絆ではぐくむ心豊かなまち 京田辺  
～育てよう 支えあう 絆でつなぐ ふれあいネットワーク～

### 基本目標 1 支えあいをはぐくむまちづくり

基本計画1 地域の「支えあい」の活動を進めよう

- ① ご近助活動の推進
- ② 区、自治会との対話と連携

基本計画2 ほっとできる居場所(たまりば)づくりを進めよう

- ① 住み慣れた地域の居場所づくり
- ② 誰もが気軽に集まりほっとできる居場所づくり
- ③ 福祉施設と協働した居場所づくり

基本計画3 ボランティアの魅力を発信！仲間づくりと組織づくりを進めよう

- ① ボランティア活動への参加促進
- ② 市民とボランティアが気軽に集えるセンターづくり
- ③ ボランティアグループの組織強化
- ④ 将来を担う子どもたちと共に地域で育てる福祉の心

基本計画4 心と社会参加のためのバリアフリーを進めよう

- ① 心のバリアフリーの推進
- ② 施設や設備、移動など社会参加のための環境整備

基本計画5 要援助者や介護者の支援を進め、安心につなげよう

- ① 要援助者や介護者に寄り添った支援
- ② 認知症の理解と普及
- ③ 利用者やその家族に寄り添ったサービスの提供

基本計画6 地域と連携して、災害ボランティアセンターの体制強化をともに進めよう

- ① 災害ボランティアセンターの周知と担い手づくり
- ② 地域や関係機関と顔の見える関係づくり

### 基本目標 2 地域で安心して暮らせるネットワークづくり

基本計画1 地域全体で支えあう絆ネットワーク活動を展開します

- ① 地域活動団体や関係機関とのネットワークづくり
- ② 力を合わせて見守る体制づくり
- ③ 福祉や暮らしの課題を専門機関等と連携して解決する仕組みづくり

基本計画2 当事者組織の「つながる・支えあう」活動を応援します

- ① 当事者の組織支援

### 基本目標 3 市民とともに福祉を進める社協づくり

基本計画1 身近な社協、市民の信頼にこたえられる社協づくりを目指します

- ① わかりやすい広報活動の展開
- ② 社協活動や募金活動の啓発と強化
- ③ 小地域福祉活動を推進するための体制の検討

基本計画2 課題や情報を共有し、地域福祉サービスの向上をはかります

- ① 地域や暮らしの課題の共有
- ② 地域福祉活動計画を推進します

## ▽ 基本目標ごとのまとめ

### 基本目標1

### 支えあいをはぐくむまちづくり

#### 基本計画1 地域の「支えあい」の活動を進めよう

少子高齢化や核家族化が進み、近隣住民との関係が希薄化する中で、社会から孤立し貧困や生活課題など、ますます深刻化することが懸念されています。特に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、地域間や個人・家族間の分断も進行し、新たな課題も顕在化してきています。

そのような中で、家族だけでなく身近な人たちによる支えあいの活動を連携して取り組んでいくために、令和元年度から『I♡京田辺ふれあいワークショップ』として、区・自治会や社協分会長、民生委員・児童委員に集まっていただき、活動内容や課題を共有し意見交換を行いました。引き続き、出された意見をまとめ分析したうえで、課題の解決や活動の発展に向けた協議や検討が必要となっています。



令和元年度 I♡京田辺ふれあいワークショップ



#### 基本計画2 ほっとできる居場所（たまりば）づくりを進めよう

いろいろな人と出会い交流をはかるための居場所づくりの取組も新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響を大きく受けました。一方で、古民家を利用した拠点が生まれるなど、地域に根差した居場所づくりの取組も進んでいます。

今後は地域で一緒に取り組んでいただける担い手をいかに確保していくのかという課題もあげられています。

##### 【地域の居場所づくり】

各地域におけるふれあいサロンの取組は、感染状況を見ながら少しずつ再開されています。参加者や活動者が安心して集えるよう消毒や検温など感染対策に「小地域福祉活動推進事業助成金」を活用していただきました。

また、再開した地域では「おたっしゃ応援事業」として高齢者が元気に過ごすためのプログラムを地域役員と共に企画・実施しました。



子育てサロン

### 【子育て世代の居場所づくり】

子育て世代の親子の交流の場として、社会福祉センターにて「いつでもだれでも」を開催しました。緊急事態宣言等による閉館中は中止していましたが、大学生などのボランティアの協力も得ながら、イベントを企画するなど、市民に定着してきています。

児童週間には、市担当課と協力し、ミニ相談会を開催し、気軽に子育て相談ができました。



いつでもだれでも

### 【高齢者の居場所づくり】

地域に開かれた福祉施設として、これまでも協働の取組を進めていましたが、新型コロナウイルス感染症により施設を拠点とした居場所づくりの取組が困難になりました。今後は、コロナ禍での新たな協働の形を模索しながら、必要とされる取組を検討し展開していくことが求められています。



洛南寮での「ひだまりの会」

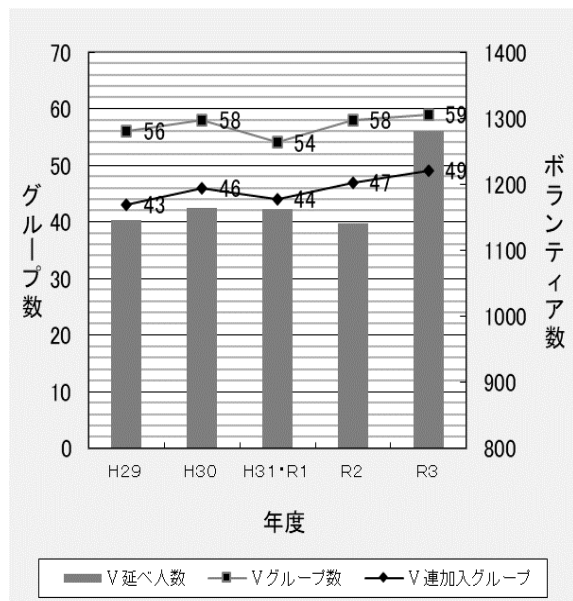
## 基本計画3 ボランティアの魅力を発信！仲間づくりと組織づくりを進めよう

これまでは社会福祉協議会に登録するボランティアグループ数やボランティア登録者数は微増傾向にありましたが、この4年間では、ほぼ横ばいで推移しています。特に会員の高齢化等により、新たな担い手の確保が課題となっておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、より課題解決に向けた取組の必要性が顕著となりました。

令和2年度に行った『コロナ禍でのボランティア活動に関する状況調査』では、約9割の登録グループが活動の休止や規模の縮小など何らかの影響を受けており、会員のモチベーションの維持や活動の継続に向けて、手探りながらも工夫をしながら取組を進めています。ボランティアセンターとして、モバイルWi-Fiルーターやアクリルスタンドの貸出、活動助成金の交付、「ボランティアグループ活性化応援事業」の実施など活動支援を行いました。

また、令和2年度よりアルプラザ京田辺店のセントラルコートをお借りし「ボランティア活動展」を開催することで、より効果的にたくさんの市民の皆さんにボランティア活動について知ってもらおう機会を設け、魅力を発信しました。

ボランティア活動への参加促進に向けたボランティアの養成講座や「社会福祉センターふれあいまつり」、夏休み期間を利用した「社会福祉体験学習」などの事業は、感染拡大防止の観点から度々中止となり、コロナ禍での実施に向けた検討をしながら進めました。大学と連携した学生と地域の人たちとの出会いの場の創出やボランティアグループ同士の連携強化により、仲間づくりと組織づくりの取組が進んでいます。



ボランティアやボランティアグループ数の推移  
(平成29年度～令和3年度の調査)

## 基本計画4 心と社会参加のためのバリアフリーを進めよう

新型コロナウイルスの感染拡大によって、障がい者の社会参加の機会が減少しています。また、人と人との接触が難しい中で、配慮が必要な人をサポートする意識が低下しています。

誰もが正しい認識とサポートができるよう、福祉団体や関係機関と連携して、市民向けの取組や啓発活動を行いました。バリアフリーに対する意識の向上と社会参加のための環境整備は、今後も求められています。

### 【障害者週間】

障がい者の社会参加に向けた啓発事業を行いました。12月の「障害者週間」の期間に綴喜二市二町の障がい者団体と社会福祉協議会が協力し記念事業や街頭啓発を通して、障がい者への理解を深めています。



障害者週間街頭啓発

## 基本計画5 要援助者や介護者の支援を進め、安心につなげよう

高齢者だけの世帯や、ひとり暮らしの高齢者が増えている地域の状況において、手助けや介護が必要となっても、孤立した不安定な日々を過ごしていることや、介護などの負担を周りの人にも理解してもらうことは容易ではありません。地域で支えるための交流会や講座の開催を通して、つながりと理解を広めました。ひとりで悩んだり孤立することがないように、場づくりやサポートが求められています。

### 【認知症への理解】

地域や小中学校での認知症の学習や講座を実施しました。専門の講師による講義を通して、正しい知識を身につけて対応ができるように学びました。



認知症サポーター養成講座

### 【要援助者や介護者への支援】

要援助者をはじめ介護者の状況を把握するため、介護相談や介護者交流会、介護講座などを開催しました。相互のつながりを持ち、それぞれの抱える問題に助言をしたり、話を聞きとり、情報交換することで当事者に安心して過ごしてもらえるよう、地域住民やボランティアとも協働で事業を進めました。



介護者交流会



介護講座



## 基本計画6 地域と連携して、災害ボランティアセンターの体制強化をともに進めよう

大規模災害時には被災者一人ひとりに寄り添った支援活動のため、多くのボランティアの協力が必要になります。その際の円滑な活動に向けては、災害ボランティアセンターの効果的な運営が必要不可欠になりますが、本会では平成26年から常設型のセンターを設置し、体制づくりを進めています。この4年間では本市や近隣市町村で災害ボランティアセンターの災害時体制への移行が必要な災害は発生していませんが、体制強化に向けては、研修会などを通して関係機関や市民への理解を広げながら、顔の見える関係づくりが必要になります。

### 【災害ボランティアセンター設置運用研修】

災害時体制に移行した場合を想定し、運営面での役割や流れについて、模擬的に各セクションを立ち上げて確認。関係機関や団体との連絡調整の体制についても確認しました。



災害ボランティアセンターの立ち上げに向けて必要な準備や確認事項などについて、ワークショップ形式で話し合いました。



### 【災害ボランティア出前講座（防災学習）】

子どもたちが地震や風水害など自然災害について知り、自分の命を守る行動がとれるよう“そなえ・くふう・たすけあい”をテーマに授業を行いました。



## 基本目標2

## 地域で安心して暮らせるネットワークづくり

### 基本計画1 地域全体で支えあう絆ネットワーク活動を展開します

絆ネットワーク活動では、地域の中で温かく見守りあい、顔の見える関係づくりを進めています。暮らしの中の困りごとや地域課題を話し合い、一緒に考えて“地域の福祉力”で解決、解消するための仕組みづくりとして、この4年間で市民を対象とした研修会、声かけ訓練や地域での公民館での研修会など、関係機関と連携した様々な取組を行いました。また、まちづくりサポーター企業による仕事の中のさりげない見守り活動の取組、地域で行われるサロンなどの交流活動や見守り活動、コロナ禍の対応など、地域福祉活動を関係機関と連携して展開し、地域全体で支えあう絆ネットワーク活動を推進しました。

#### 【地域福祉活動支援】



地域役員による見守り活動(松井ヶ丘)



おしゃべりサロン(大住ヶ丘)

#### 【関係機関との取組】



声かけ訓練(花住坂)



防犯教室(田辺府営団地)

#### 【まちづくりサポーター企業】



企業と社協をつなげる研修

#### 【市民を対象とした研修会】



見守りスタッフ養成研修

## 基本計画2 当事者組織の「つながる・支えあう」活動を応援します

当事者組織は、活動や交流を通して互いに情報を共有して支えあうなど、ネットワークづくりにおける重要な資源です。コロナ禍では、集まって活動することが困難となり、長期間顔を合わせないことで、安否の心配や活動が停滞することへの懸念の声が聞かれました。当事者団体へは、活動助成金の交付や送迎などの活動支援を行いました。少しずつ活動が再開されはじめる中で、団体ごとの“支え合い”活動のサポートが必要となっています。

### 【身体障害者協会】

卓球バレーの活動やカラオケサークルを通して社会参加や会員同士の親睦に取り組みました。



創立 60 周年記念式典

### 【聴覚障害者協会】

会員相互の情報共有の場として研修会を開催するなど、豊かな生活に向けての活動に取り組みました。



障がい者のつどい(ポッチャで交流)

### 【視覚障害者協会】

府内の活動やボランティアとの交流会に積極的に参加し、日頃からのつながりづくりの一助となりました。



ボランティアとの交流会

### 【障がい者スポーツ大会】

市内の様々な障がい者や事業所の障がい者が一堂に会し、ボランティア等の支援により有意義な時間を過ごしました。



友遊フェスタ

### 【ひとり暮らし高齢者の会むつみ】

倶楽部活動として太極拳や脳活性化ゲームを実施し、機能低下の予防と会員同士のつながりを深めました。



太極拳倶楽部

### 【京田辺・さくら】

社会福祉協議会と共催で親子ふれあいの集いや夏休みわくわく教室を開催するなど、ひとり親家庭の会員同士のつながりを深めました。



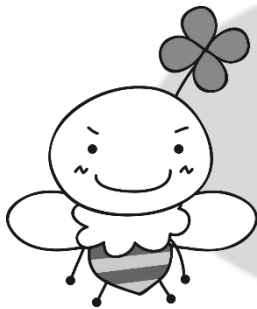
親子ふれあいの集い



**基本計画1 身近な社協、市民の信頼にこたえられる社協を目指します**

“社会福祉協議会”の名前は知っていても、どんな活動や取組をしているのか、まだまだ知られていない現状があります。市民の皆さんと共に地域福祉活動を進めていくために、社協の活動について知ってもらい、自分たちのまちのことについても興味を持ってもらえるよう情報発信に努めました。特にSNSを活用し、「LINE」や「Instagram」などを通して、必要な情報が必要な人へ届くよう効果的な広報や周知に取り組みました。

社協  
マスコットキャラクター



きょうたくん

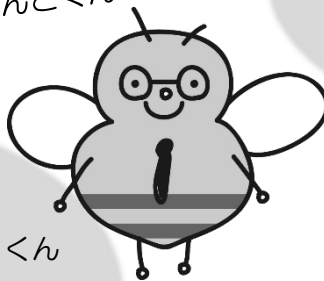
- 四ツ葉のクローバーがシンボル
- 正義感が強く温かい心の持ち主
- ログセは「よしがんばるぞー」



つつじやん

- 包み込むようなやさしさをもつ
- 先を見通す力がある

幸せを呼ぶと言われるみつばちを  
モチーフにしたきょうたくんとぼんどくん



ぼんどくん

- 英語で絆を意味する“ぼんど”くん
- 心が広く困っている人を  
ほっておけない
- 汗をかき走り回る「汗かき王子」

京田辺市の花ヒラドツツジを  
モチーフにしたつつじやん

**基本計画2 課題や情報を共有し、地域福祉やサービスの向上をはかります**

職員一人ひとりが地域福祉に携わっている自覚を持ち、それぞれの業務に取り組みました。また、各部門での職員会議等による情報共有や、部門を越えての事業の推進にかかる検討（苦情・所属長会議）などを行い、地域や暮らしの課題を共有するとともに、各種研修を企画し資質の向上にも努めました。

地域福祉活動計画推進委員会は設置できませんでしたが、理事会での中間報告を行いました。